

ドイツのお金

ユーロはヨーロッパの通貨です。しかし、すべての国でユーロを採用しているわけではありません。たとえば東欧諸国は EU 加盟国ではありますが、独自の通貨を保持しているところがほとんどです。通貨というのは必ずしも安定しているとは言えません。戦争や金融改革などがあればたやすく変わってしまう可能性もあります。ドイツでも通貨は何度も変わりました。たとえば、筆者（リースナー）の父親が生まれた時代には、まだライヒスマルクという東西ドイツに分断される前のドイツ共通通貨がありました。その後、父は 5 回もの通貨切り替え（1948 年、1964 年、1968 年、1990 年、2002 年）を体験したのです。下の表にある通り、旧東ドイツで通貨の切り替えが多く、西ドイツのドイツマルクはユーロが導入されるまで、長く変わることはありませんでした。

	旧東ドイツ	旧西ドイツ
1948	Deutsche Mark der Deutschen Notenbank	Deutsche Mark (DM)
1964	Mark der Deutschen Notenbank	
1968	Mark der DDR	
1990	Deutsche Mark (DM)	
2002	Euro	Euro

筆者も、東ドイツにおいて 1990 年に西ドイツのドイツマルクが導入されたときのことは今でも忘れられません。通貨切り替えの前日は、ガソリンスタンドに長蛇の列ができていました。みな、東ドイツマルクで給油しようと並んだのです。ドイツマルクは東ドイツ人にとって夢の通貨であり、すでに導入前から人目をしのいで使われていました。ドイツマルクは、ドイツの経済力、購買力を強くしてくれるものであり、何よりもドイツ統一の象徴だったのです。

日本では、1871 年以降日本円が用いられています。当時の日本には品質の良い紙幣を印刷できる技術がなかったため、ドイツのフランクフルト・アム・マインにある印刷所に新しい日本円紙幣の印刷が委託されました。印刷された紙幣は船で日本まで運ばれました。ただし、日本も、自国の技術で紙幣が印刷できるようになるまでに長くはかかりませんでした。